タイトル： 雑職経験からのメッセージ

（久しぶりに里帰りしたシンガポールにて）

みなさん，こんにちは。国際部長の橋本です。
私は，これまでの雑多な経験から感じたことを，メッセージとしたいと思います。
1976 年に県庁に入って以来 36 年近くのうち，丸 10 年を県庁外で過ごしました。
全国初の公務員の商社出向，シンガポール広島事務所初代所長，(財)ひろしま国際センター出向と広島大学への転職。4 年 3 月過ごした広大からの復帰。
それぞれが，それまで築いた知識・経験，人脈，実績などに頼ることのできない，白紙からのスタートでした。

商社出向は，県職員には県庁外の人と同じ土俵で対等な議論ができるための研修機会が必要，という自分自身の提案がきっかけでした。まだ主任にもなっていなかった私の提案を受け入れていただき，広島県庁で初めての１年単位の民間派遣制度が実現しました。24 年前のことです。
自分の信じることを提案し，周囲の人々に働きかけ，実現するまで粘り強く忍耐強くやり切る，そんな面白さと大切さを感じました。
シンガポール駐在は，地域の未来への，政治と行政の責任を感じた経験でした。シンガポールとフィリピンの一人当たり GDP の差は，50 年前の 2 倍から 21 倍へと大きく開いています。国や地域の将来の姿は，大きく変わり得るのです。シンガポールでは，よそ者に優しい社会の中にある多様性の力も印象的でした。
民間企業 6 社からの出向者と県職員で構成する財団への出向も貴重な経験でしたし，国立大学初の社会連携組織の立ち上げも新たなチャレンジであり新鮮でした。

このような経験の中で，「うまくいかないのが当たり前。めざせば叶う訳ではないけれどめざさなければ何も始まらない。難しい仕事は難しい顔をしてはできない。助走の無いジャンプは無い。次の曲がり角まで。風に向かって立つ。あと１mの壁。」など，いろんな言葉が自分の中に生まれています。
いずれも，自分から言い出して，めざすものに向かって無から有を生み出そうともがき壁にぶつかり悩む中で，心に浮かんだものです。
新たな取組みは成功の保証などなく，思うようにはいかないものです。だから，方向性を大切に，自分を励ましてあきらめずに進み続けるための言葉が必要です。

産学官・財団・海外で経験をしてきた今，社会の未来のために，同じ思いを持つ職員がチームとして力を合わせ，社会の人や組織の力を活かしつなぎ合わせて変化を生み出していく，県庁の仕事の面白さを感じています。
国際部長としては，主に，国際平和拠点ひろしま構想に関わっています。廃墟から

復興した地として，「復興への確信と未来への希望」を提供でき，世界から人材が集まる広島をめざしていきたいと考えています。

個人的な面では，長期休暇を取って家族と一緒に海外(節約)旅行をするのが趣味といえば趣味です。カナディアンロッキーやオーストラリア，ニュージーランドをキャンピングカーで自炊しながら回ったり，タスマニアで３週間ほど過ごしたり。でも，最近は，家庭菜園と魚釣りに落ち着いています。

（カナディアンロッキーにて）

変化の時代にあって，「現場の課題を組織の課題にそして社会の課題へ」結びつけ，社会的課題を解決していくための社会システムづくりが求められています。

これからの広島県庁を担うみなさんが，内弁慶の机上の議論に終わることなく，解説力よりも解決力で，新たな時代を切り開く覚悟と気迫を持って，外に向かって現実の一歩を実際に踏み出し，チャレンジする緊張感を楽しみつつ活躍されることを期待しています。